

令和 5 年度
「年度更新の簡便化に向けた学習者のシス
テム間識別用 ID 統合のための調査研究」
レポート

令和6年 3 月

UCHIDA

株式会社内田洋行

目次

1	はじめに	2
2	甲賀市様（実証自治体）の状況	2
2.1	市内の学校規模	2
2.2	システムの導入状況	2
2.3	それぞれのシステムでの名簿の状況	2
3	これまでの学習 e ポータルの名簿管理について	3
4	今回の 2 つの名簿の名寄せ・突合について	3
5	留意事項	3
6	今回の名寄せ・突合の成功要因	4
7	今後の課題	4
8	これらのことから考えられるベストプラクティス	4

1 はじめに

児童生徒一人1台端末が実現され、端末を有効活用するために学習 e ポータルの導入が多く自治体で進んだ。早期に有効活用を実現するため、学習 e ポータルで独自に児童生徒の名簿が整理され、その結果、教育委員会や学校では、学習 e ポータルと校務支援システムの両方で2重の名簿の整備という作業が発生することとなり、とくに、年度初めの名簿整理に負担がかかるようになってしまった。

この2重の名簿整理の手間の負担を軽減するために校務支援システムで整備した名簿を学習 e ポータルへ反映することで解消することが考えられ、名簿データの連携仕様に国際技術標準である OneRoster を活用することが、デジタル庁、文部科学省で示された。

しかし、データ連携するためには、まず始めに、それぞれのシステムで独自に整備された名簿情報の名寄せ・突合が必要であり、その名寄せ・突合作業をいかに簡便に行えるかということが課題となっている。

本事業では、この大変手間かかる名寄せ・突合作業について実際の自治体で実践いただき、その内容をレポートにまとめ、報告する。今回、ご協力いただいた自治体は、滋賀県甲賀市様になる。

2 甲賀市様（実証自治体）の状況

2.1 市内の学校規模

	学校数	学級数	人数
小学校	21	242	4,572
中学校	6	110	2,404
合計	27	352	6,976

※出展元：滋賀県教育委員会 HP

学校数、学級数、園児・児童・生徒数、本務教員数（令和4年5月1日現在）

<https://www.pref.shiga.lg.jp/edu/toukei/suuzidemiru/kakusyu/326906.html>

2.2 システムの導入状況

システム	製品名	メーカー	導入時期	本格運用開始
校務支援システム	デジタル校務	内田洋行	2019年度	2020年4月より
学習 e ポータル	L-Gate	内田洋行	2021年度	2022年4月より

2.3 それぞれのシステムでの名簿の状況

- ・2023年度まで、児童生徒の名簿は、それぞれのシステムで整備を実施
- ・2024年度4月より、校務支援システムから学習 e ポータルへ名簿データ連携を導入予定
- ・校務支援システムの児童生徒識別キーは、児童生徒 ID をシステムが自動付番
- ・学習 e ポータルの児童生徒識別キーは、Microsoft365 のメールアドレスを使用

3 これまでの学習 e ポータルの名簿管理について

① 学習 e ポータルの導入時の名簿の整備について

校務支援システムより、全校の児童生徒名簿をデータ出力し、教育委員会にて識別キーとなる Microsoft365 のメールアドレス（以降、ID という）とパスワードを全員分の払い出し、児童生徒名簿に付加し、学習 e ポータルへ取込み整備した。

② Excel にて、学習 e ポータルの名簿管理を実施

定期的に校務支援システムの名簿と比較を行い、新入生、転入生に ID とパスワードの払い出しを教育委員会にて実施して、該当校の児童生徒のみを抽出して、Excel を 27 校に配布していた。

③ Excel での学習 e ポータルの名簿管理が負担となっていたため、校務支援システムが管理する児童生徒の情報に、ID とパスワードを追加して管理する方法に変更する。校務支援システムに登録することで、教育委員会は、ID とパスワードの払い出しとともに、各学校に ID とパスワードを伝えることが 1 つの行為で行えるように改善された。

4 今回の 2 つの名簿の名寄せ・突合について

① 前述のとおり、校務支援システムに学習 e ポータルの児童生徒の識別キーとなる ID が登録されており、ID を突合キーとして名寄せを実施した。

② 各学校が校務支援システムに登録する児童生徒情報に不備がないか確認するための Excel マクロのシステムが教育委員会にて作成されていた。日々の運用の中で絶えず改良を加え、学習 e ポータルの名簿のチェックと名寄せ・突合する機能を追加している。

この Excel システムのチェック機能は、以下を有する。

- ・校務支援システムに登録している学習 e ポータルの ID の重複チェック
- ・校務支援システムに登録している学習 e ポータルの ID の空白チェック
- ・ID（メールアドレス）のドメインが正しいかのチェック
- ・校務支援システムで特別支援学級の児童生徒が交流学級設定されているかのチェック
- ・校務支援システムに存在して、学習 e ポータルに存在しない児童生徒のチェック
- ・学習 e ポータルに存在して、校務支援システムに存在しない児童生徒のチェック
- ・校務支援システムと学習 e ポータルで児童生徒の所属の一致確認チェック
（所属する学校、学年、学級をチェック）
- ・氏名は苗字と名前を分割して管理されており、苗字、名前の前後の空白除去チェック
（氏名比較に有効）

突合した結果、同一人物であることを氏名、ID で最終確認する。

③ 名寄せ・突合に利用した Excel マクロのシステムの開発期間は、日々改良を加えてきたが、トータルで 1 か月強程度である。また、今回の名寄せ・突合の作業は、この Excel マクロのシステムを使い、システムから学校数分の名簿の取出し、読み込み、照合、校務支援システムと学習 e ポータルの名簿のメンテナンスで、約 1 時間程度である。

5 留意事項

校務支援システム、学習 e ポータルそれぞれの名簿の取得タイミングの留意点は、校務支援システムの児童生徒情報が元となるので、校務支援システム、学習 e ポータルの順で名簿を取得する。逆の順番の場合は、転校生が反映されていないことがあり、差が生じる可能性が高くなる。

6 今回の名寄せ・突合の成功要因

- 日頃から校務支援システムを利用して、学習 e ポータルの名簿を管理していたため、すでに大部分で、名寄せ・突合が出来ている状況であった。
- 各種の児童生徒情報をチェックするための Excel マクロのシステムが開発され、随時機能のバージョンアップが図られ、システムが洗練されていた。そして、このシステムを使って、定期的に児童生徒情報に不備がないかのチェックも行われていた。
- 教育委員会が学習 e ポータルの ID、パスワードの払い出し等の管理を一元的に行って来たことで、それぞれの名簿の整合性など、正確性の高い名簿が整備されていた。

7 今後の課題

- 校務支援システムはその性質上、児童生徒の情報を管理するための機能が充実しているが、教職員については、あまり機能を有していない。教職員も名簿データを連携するための管理機能の充実が求められる。
- 外字の入った氏名については、学習 e ポータルで正しく氏名表示できない。校務支援システムには、学習用の氏名を登録する項目が用意されているが、外字を見つけて 1 つ 1 つ修正していく手間を軽減したい。

8 これらのことから考えられるベストプラクティス

2 つの名簿を突合するための共通キーが存在しない場合、氏名や出席番号、所属する学級などで名寄せ・突合することになるが、人的なチェックが多く発生し時間がかかる。多くの自治体では、汎用クラウドツールを導入されており、メールアドレスが ID となっている。学習 e ポータルにもこの ID 情報を保持している可能性が高い。登録する手間がかかるが、教育委員会、学校、システム提供事業者が協力し、予め校務支援システムの児童生徒情報に ID の登録作業を実施し、共通キーを作成した方が近道ではないかと考える。登録した情報は、汎用クラウドツールの ID 管理ということで継続して利用できる利点もある。また、名簿の管理を学校にすべて任してしまうと、学校ごとに管理精度のばらつきが発生するため、教育委員会が中心となって進めることも有効な手段と考える。

以上